

第12期「まちづくり大学」グループワークの議事録

班 ファシリテーター (上谷 元忠) ()

参加者	寺西 和子、山本タチ子、大西 圭介、山本 久恵
	進行役 (大西 圭介) 発表役 (大西 圭介)

提案者	活動テーマ	取組み方法
大西	防災	まずは、関心を持ち日常のコミュニケーション・相互認知が大切 「隣は何をする人ぞ」⇒防災だけでなく各種犯罪やDVや虐待等の防止に繋がる。
大西	防災	家庭や会社内での災害時の準備⇒出来ている気になっている。
寺西	防災	一歩進んで、家族全員が共通理解しているか？ 集合場所に実査に全員集合。
山本 (タ)	まち大	たのしく参加できた。
大西	防災	学習・研究 (机上) も大切であるが、実際に災害現場に入らないと分からないことが多い。 ①災害当時 ②復興時 ③新しいまち完成 常にウォチングが大切
山本 (久)	防災	個人情報保護の観点で、活動の妨げになっていることが多々あり、ネックとなっていることが多い。
大西	自治	ボランティア・市民協働 課題 ・若年層の開発 学校や各種団体での体験学習・・・ここに 既存構成員が参加する
大西	自治	各種団体幹部同士の確執
<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 大西	自治 防災	自治会加入率の低下 未加入者への対応 避難所運営 リーダーは？ ①部屋の割り当て？ ②一次、二次避難所の違い③配布物資の分配ルール④要支援者への対応⑤各種プライオリティ、ハートセイバー

<p>話し合いの概要</p>	<p>防災については、何をしてもらえるかから、自分は何ができるのかへの変革 座学だけでは実践で役に立たないことが多い。受け身から能動へ 守秘義務・個人情報タテになっている。</p>
<p>発表内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害直後は「自助」、生命の確保後は「共助」、最後の「公助」はオマケと考えるべき⇒地域ごとにコーディネーターが必須（防災士等のリーダーシップ） ・リーダーシップと我は 紙一重 ⇒初参加レベルの方は、「事業」に感動するより「人」に感銘を受ける ・防災を語るに、正解ナシ！ まずは 命を守ること 思い込みの間違いたとへば、消火器は台所に・・・「正解」はないが「間違い」は有る ・防災とは、減災しかできない ・現役世代への対応が大切
<p>感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まちのことについて、いろいろと知ることができ為になった。特に、清掃工事へ見学に行った体験はよい勉強になった。あとは、実際に行動・実践するのみ。 ボランティアに限らず、まちづくりに関する協働への参画については <ul style="list-style-type: none"> ①若年層の参加で世代をつなぐこと ②年配の方の経験・知識も大切だが、今の社会情勢を理解し、現役で活躍している層の意見も必要 ・
<p>その他感想記入</p>	

講座を振り返っての意見・感想として

- ・ひと月だけでも、定時に講座を受けるための時間を作るのに苦労した。
- ・市制30周年について 円卓（三校区協働）での企画、実行委員会の立ち上げ（協働）
- ・まち研について 地区やその他の団体（特に円卓）との連携や協働を模索しては？